

グリーンルーフ

館藏品誌上ギャラリー ⑤

鹿児島市立美術館だより



江口 暁帆「桜島・天保山・磯山図」1900年

表紙の作品

江口 暁帆 「桜島・天保山・磯山図」

1900年 絹本着彩 三幅対 各100.0×33.0cm

狩野派は日本絵画史上最大の画派である。江戸時代、絵画を学ぼうとする人はまず狩野派の門をたたいている。ここに学んだ絵師は膨大な数にのぼり、その全体像は未だ正確に把握されているとは言えない。

なかでも江戸後期の狩野派は江戸幕府の崩壊にともない美術史上から姿を消すこととなる。明治以降、失職した狩野派の絵師たちはその後どのような運命をたどったのであろうか。

ここに紹介する薩摩の絵師江口暁帆（1839～1921、本名は親雄。暁畔、暁颯と号す）は、郷里で佐多椿斎について学んだ。椿斎の師馬場伊歳は木挽町狩野家八代当主伊川院栄信門人である。暁帆の作品を見ると狩野派の筆法を忠実に学んでいることが分かる。

世が世であるなら薩摩藩の御抱え絵師として活躍していたと思われる。明治以降は鹿児島県立学校三等教授図画掛となる。また新政府に出仕して正院地理課、内務省地理局測量課で働いていた。

「桜島・天保山・磯山図」は、地理測量関係の絵を手がけていた暁帆らしい実景図である。中幅に桜島と高隈山系、右幅に天保山と遠景に開聞岳、そして左幅に磯海岸と遠く霧島の高千穂峰が描かれている。掛け軸の縦に細長い画面を活用して、薩摩半島の南北に広がる景観を見事に表現している。

本図は明治33年、暁帆61歳の制作になる。長い伝統を誇った狩野派の、鹿児島における掉尾を飾る作品と言えよう。

鹿児島市立美術館

〒892-0853
鹿児島市城山町4-36
TEL (099) 224-3400
FAX (099) 224-3409



Kagoshima City Museum of Art